



<https://sp.seiga.nicovideo.jp/seiga/#!/im2546527>  
からの借用画像

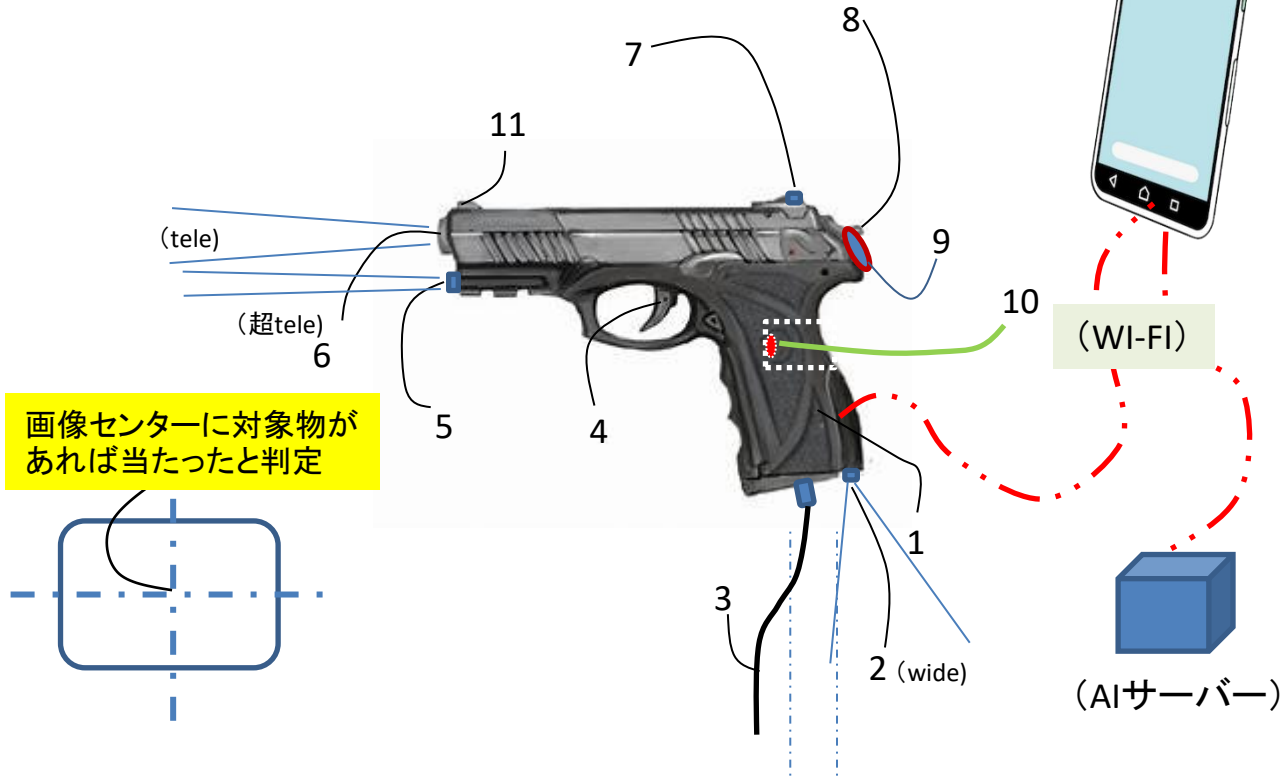
悩殺ピ  
ストル

射殺OK(悩殺OK)の登録をスマホアプリでしておくき、異性から射撃されヒット(画像中心に被写体がきている)されると、撃った人(撮影した人)のプロフィールと画像とが表示され、数分間だけラインがつながる仕組みにすると、出会った瞬間で交際が始まります。

# ピストル型カメラ

誰もが遊びながら、楽しみながら、自然な感じの監視社会を構築し、世界のあらゆる暴力犯罪やテロの抑止力へ

(スマホアプリ)



## <外出時の装着の推奨>

車載カメラが多くの事件を解決してきたが、歩く監視カメラは前後にカメラがついており、(多くの人に見られ、履歴が残ることで)暴行やけんか、殺人やテロなどの抑止力になる。

子供用(小型軽量)~訓練用(実物と同じ重さ、サブカメラなし)等様々な形状や色が考えられる。

(数値はフルサイズカメラのレンズの焦点距離案)

|    | 名称                              |
|----|---------------------------------|
| 1  | 本体                              |
| 2  | サブカメラ2 (30~50mm) 首振り30度         |
| 3  | 電源供給&盗難防止のケーブル                  |
| 4  | ひきがね (シャッター)                    |
| 5  | ストロボ (超指向性: 1000mm)             |
| 6  | メインカメラ (100~300mm)              |
| 7  | サブカメラ1 (50~100mm) 首振り30度        |
| 8  | マイク                             |
| 9  | スピーカー                           |
| 10 | SOSボタン (山での遭難等+GPS情報送付)         |
| 11 | 青・赤 : LED (あたると青、当てられると赤が点滅する。) |

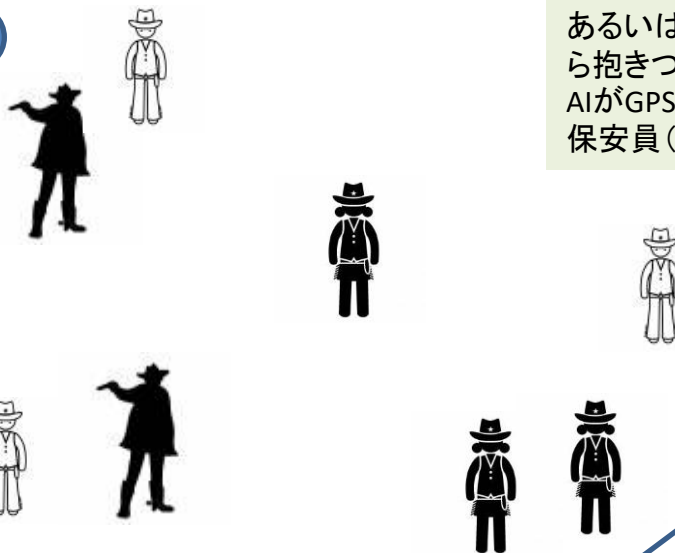
(片手しか使えない時にシャッターチャンス逃さない)

## 業務用途

狭い場所高所など、片手しか使えない時に撮影し、助手のスマホや本部のTVモニターに画像を送り判断を仰ぐ等

## 遊び用途

集団での銃撃戦、決闘シーンの演出、射撃、狩り等...例えば、1時間の間に、何匹の猫や犬をしとめることができるかを競う等...



## ＜主に子供や女性の護身用途＞

暴漢に襲われそうになったら、さっと打つ(撮す)あるいは、外出の時は録音モードにしておき、後ろから抱きつかれたら、「キャー暴漢！」といえば、クラウドAIがGPS情報を含め警察や近くでパトロール中の街の保安員(新たに新設される可能性)に連絡する等...

## 歩く監視カメラ

カメラが壊れても直前の画像や音声AIサーバーに残る。

## サブカメラ(wide)

電源 & 盗難防止  
ケーブル

万が一遭難したら...火事や事故に遭遇したら、まずSOSボタンを押し、その後現場写真を撮影すると、GPS情報と画像が警察に送られるシステム。

## シャッターチャンス逃さない

西部劇のように、外出の時は腰にぶら下げて歩き、(スマホでは、バッグから取り出し、カメラモードにする等で、数秒はかかり、シャッターチャンス逃す場合が多いが)「抜き打ちで」一瞬で撮影できる。又、手振れもAI画像処理によって解消する。



スマホケース

ケーブル巻取り機付き電源(充電タイプ)

## <AI技術による楽しい監視社会のはじまり>

中国では監視カメラが急速に普及し、大幅に犯罪が減るという安全になった反面、（管理者の判断ミスや検挙率のノルマ等による）理不尽なスパイ容疑で逮捕されて、長期間監禁されるという事例もあって、一人独裁国家中国の怖さの象徴的な存在にもなっています。

ピストル型カメラは、だいぶ前に特許を取得した（特許第6485933号）ものの、「本物と間違えられる、危険な存在」となるのではないかと考え、頭の整理箱に収納していたものですが、顔認証も含む、昨今の急激なAI技術の進歩によって、むしろ「楽しい監視社会」を構築ができると考えています。

人が管理すると大変ですが、地域ごとのAIの自動管理システムの構築により、人の負荷が大幅に減った上に、捜査や裁判等が迅速で確かな証拠により誤審がなくなり、大幅な時間短縮ができ、なによりも安心安全で、楽しい社会が実現します。

また本物のピストルでは（誤射や乱射事件も多発しており）もしも不審者の疑いがあつたとしても、（正当防衛のない殺人の可能性があり）すぐに撃てるものではなく、躊躇なく撃てる（写せる）ピストル型カメラの方が、護身には適しているといえます。

すなわち、相手を物理的に傷つけることなく、（もし犯罪なら）証拠を残せるので、犯罪防止になり。本物のピストルは持つ必要がなくなると考えています。

標的に命中すると緑色のLEDが点滅、撃たれると赤のLEDが点滅し、同時に音声情報で「左足に当たりました」等が聞こえるので、それ相応のリアクションをして、特に面白いリアクションした人を表彰する等にとすると、より楽しい銃撃（劇）競技会となります。

サブカメラをONにして持ち歩くと、音とワイドカメラの映像が、スマホ→警察署の所轄内のAIサーバーに送られ、1週間分が自動保存され、所轄内にて特に事故や事件がなければ、自動的に破棄されるわけですが、すごいのは、AIが自動で判断し「**事件や事故あるいは特定の人物の存在**」を警察署の大型モニターに、**リアルタイムで、マルチ画面で表示**してくれることです。

また、署員が（1週間以内に）時間・場所を指定すると、同様に大型モニターに複数のサブカメラからの映像が、マルチ画面で表示されます。（よく、沢口靖子らが、監視カメラの映像を探し、借りてきて、徹夜をして調べるシーンがありますが、あれが不要になります。）

遊びが多彩で、射撃大会をやったとして、複数の人が同時に撃ち（写し）、複数の人が同時に命中しても、0.01秒差も確認できるので、順位が容易に決められます。体育館で、転んでも痛くないようなマットを敷いて、幼稚園児と高齢者施設の入所者の対抗銃撃戦を行い、当事者たちはもちろんのこと、多くの市民がそれを見て楽しむようなことができます。（高齢者側は、わざと負ける必要があるのかも・・・）

ハイキング途中で具合が悪くなったり、道に迷ったりしても、まずSOSボタンを押してから、引き金を引くと、GPS情報とサブカメラからと撮影された映像が管内の消防署に送られ、また同一カメラのAIサーバーからの履歴情報を調べることで簡単に場所を特定し、音声で「その場を動かさないでください」等の指示を出しながら、救援にむかうことができます。

結論として、種種の楽しい遊びが生まれ、常にピストル型カメラを腰にぶら下げて歩き、シャッターチャンス逃さないという新たな生活スタイルやファッションを生み出し、そして安心安全な社会を（銃社会を撲滅）構築できると考えています。